



天神祭・船渡御【1954(昭和29)年】

三村幸一が撮った

大阪の祭り

大阪歴史博物館所蔵写真から

ごあいさつ

夕方6時過ぎ、天神橋^{たもと}の袂から出た船は、催太鼓を先頭に、一路、大川を上流へと遡る。天神橋の上には、たくさん見物人が群れをなし、大川を行く船を見下ろしている。川面をよぎる風は心地よく、大川に出るまでの蒸し暑さが嘘のようである。夕闇の迫る空が広々として、超高層ビルの林立する大阪にこんな広い空があったのか、と驚かされる。

2年前の7月25日、天神祭本宮祭のハイライト、船渡御に参加させてもらった時の印象である。大川を遡るこの船渡御は、地盤沈下により橋桁が下がって船列の航行に支障が生じたとして、昭和28（1953）年に採用され、現在に至っているが、1903（明治36）年生まれの写真家三村幸一は、翌29年に船上から一枚の写真を撮った。天神橋の前方にはるか、大阪城天守閣を捉えた写真である（本パンフレット表紙）。当時、三村の年齢は50歳を超えている。

銘木商の傍ら写真撮影を進める三村の仕事ぶりは、「何十枚も何百枚も惜しげもなくパチパチと撮る」というものであった。このことからすればこの写真、単なる一枚に過ぎない。しかし、

「それまでも、祭りや芸能も写してはいたが、上辺だけのものであった。民俗学を学ぶことによって、深く真実を知るようになった。しかしその時は、すでに五十歳であった」との一文からすれば、単なる一枚ではない。撮る写真家の内面が、変わっている。「上辺だけのもの」から、「深く真実を知る」ようになることで、写真にどのような変化が生じるものなのか。

高度成長期を迎え、大阪という都市がコンクリートジャングルに化していく過程を見ながら三村は、〈祭礼〉という、人と神仏が織りなす一瞬の景観をカメラに収め続けた。その歴大な作品の一部を、このようにして垣間見ることができるのは、わたしたちの大きな喜びである。

写真展開催に当たりご協力いただいた大阪歴史博物館ならびに関西大学社会的信頼システム創生センターに、心より感謝の意を表したい。

2013年6月27日

関西大学大阪都市遺産研究センター長
藪田 貫

写真家・三村幸一について

三村幸一は1903（明治36）年生まれの写真家で、道頓堀の歌舞伎や芝居、能・狂言などの写真を多数撮影しました。なかでも文楽を撮った写真は評価が高く、国立文楽劇場の公演パンフレットや解説本にも使用されました。1994（平成6）年には戦前から50年以上にわたって文楽を撮り続けた功績が認められ、国立劇場文楽賞の文楽特別賞を受賞しています。さらに、近畿民俗学会にも所属し、日本各地の祭りや行事、民俗芸能の撮影も行いました。著書には、『文楽』（講談社、1959年）、『化粧地蔵 こどもの神さま』（淡交社、1973年）、『カラー文楽の魅力』（淡交社、1974年）、『神楽面』（淡交社、1975年）などがあります。

写真家
三村幸一

四天王寺のどやどや【1959(昭和34)年】

四天王寺では、1月14日の修正会しゆしょうえの最終日(結願日)に、「どやどや」の儀礼が行なわれます。柳の枝に挟んだ牛王宝印の護符を裸の若者たちが奪い合う行事で、護符は害虫除けとして田畑に立てます。六時堂の天井から落とされた護符を取り合う若者たちを、上から撮影したものです。



にわだに 上神谷のこおどり【1960(昭和35)年】

本来は堺市鉢ヶ峯の国神社に伝わる雨乞い踊りでしたが、明治の末に国神社が片蔵の桜井神社に合祀されたため、10月5日(現在は10月の第1日曜)の桜井神社の秋祭で奉納されます。当屋の家で衣裳を付け、神社へ出発する前にひと踊りしたところを撮影したものです。

ほえかご 十日戎の宝恵駕籠【1958(昭和33)年】

大阪の祭りは正月の十日戎にはじまるといわれ、1月9日の「宵えびす」、10日の「本えびす」、11日の「残り福」の3日間に、100万人もの人びとが福を求めて大阪市浪速区の今宮戎神社へ参詣します。とくに芸妓たちが駕籠に乗って参詣する宝恵駕籠行列が有名で、現在は、芸能人などが駕籠に乗って町をまわります。



山辺の山の神祭【1960(昭和35)年】

能勢町山辺では、正月初寅の日に山の神の祭りが行なわれ、山辺神社・山の神の祠・宝塚の3か所に、豆御飯や甘酒、竹や笹でつくった弓と矢などを供えます。祭りの前に、御幣を持つ紋付き羽織の若い衆役と水桶を担いだ中年役の二人が各家をまわり、米や粟、柿などを集めて供物にします。



能勢のコムシ【1960(昭和35)年】

かつては^{ほうそう}疱瘡(天然痘)や^{ほしか}麻疹は恐ろしい伝染病であり、^{ほうそう}疱瘡除けや^{ほしか}はしか除けのまじないの儀礼が行なわれました。豊能郡と周辺地域では、二月初午の日などに女性たちが集まり、かやく御飯を炊いた釜の湯気に新生児をあて、そこへやってきた古老の男性が扮する蓑笠姿で天秤棒に徳利を掛けた人物に、^{ほうそう}疱瘡を持ち去ってもらいます。能勢町の歌垣地区で撮影されました。

野里の一夜官女祭【1959(昭和34)年】

2月20日に大阪市淀川区野里の住吉神社で行なわれる一夜官女祭では、着飾った少女たちが鮎や豆腐・餅などの神饌を入れた桶を頭上に載せて神社へ運び、神前に供えます。写真で本殿前の少女たちは屋外に座っていますが、現在は本殿が建て替えられて屋内で神事が行なわれます。





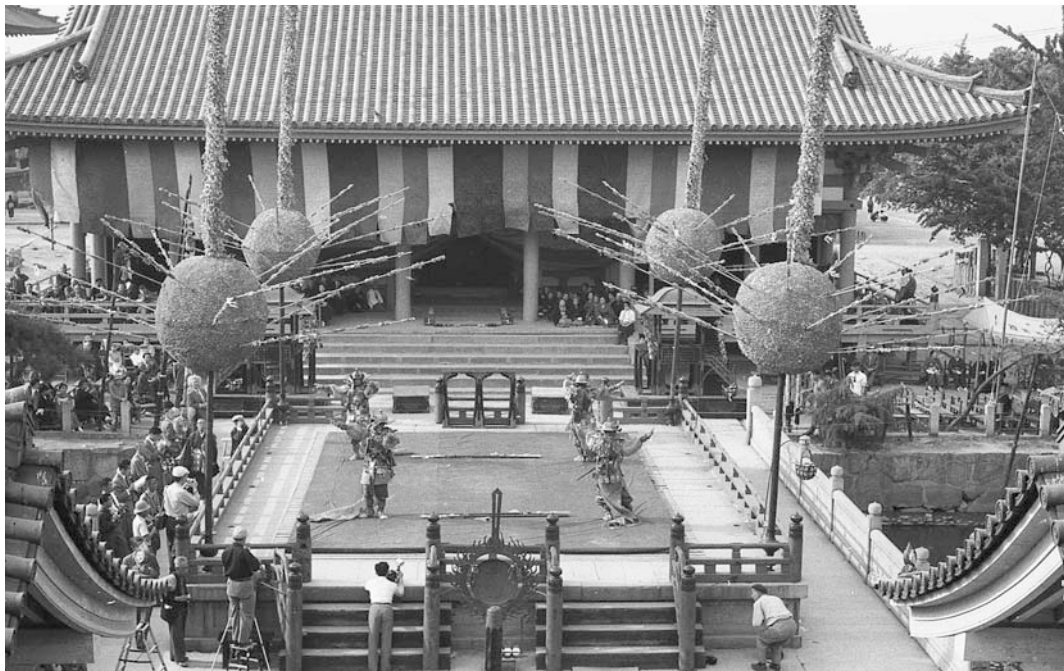
天王のきつねがえり【1964(昭和39)年】

きつねがえりは、大阪府内では能勢町天王だけで行なわれています。1月14日に、男の子たちが集まって藁でキツネをつくり、御幣とともに青竹にさし、それを先頭に各家をまわります。最後は、キツネの口に賽銭として硬貨を噛ませ、橋の上から川に放り投げます。キツネに象徴される害獣を、集落から追い出して福を招く行事です。



難波八阪神社の綱引神事【1959(昭和34)年】

大阪市浪速区の難波八阪神社では、1月14日（現在1月の第3日曜日）に綱引神事が行なわれます。綱を引き合って豊作を占う小正月の行事です。かつては綱引きのあと、綱を台車に乗せ、ハ乙女なども参加して氏子区域を巡行しました。写真は、千日前で撮影されたものです。



四天王寺^{しやうりようえ}・聖霊会の舞楽【1962(昭和37)年】

四天王寺の「聖霊会舞楽大法要」は、もともと聖徳太子の命日にあたる旧暦2月22日に営まれた法要ですが、現在は毎年4月22日に行なわれています。写真は、六時堂と亀の池に架かる石舞台を、南側から撮影したもので、「太平楽」を舞う楽人の姿がみえます。



岸和田のだんじり【1960(昭和35)年】

毎年9月に行なわれる岸和田のだんじりは、猛スピードで辻を曲がる「やりまわし」が有名です。これは、岸和田城の堀の横を通して岸城神社へ宮入りするところで、揃いの法被^{はっぴ}のデザインから堺町のだんじりであることがわかります。

池田のガンガラ火【1960(昭和35)年】

火の神をまつる愛宕信仰では、火事を防ぐ火伏せの行事として愛宕火とよぶ火祭りを行ないます。8月24日に行なわれる池田のガンガラ火もそのひとつです。五月山の中腹に「大」と「大一」の文字を火で燃やす一方、大松明をつくって市内を練り歩きます。現在の大松明は、写真よりも大きなものになっています。



しめなわ 枚岡神社の注連縄掛神事【1959(昭和34)年】

現在は、年末の12月25日になっていますが、かつては1月8日に行なわれた年頭行事です。拝殿前の石段下に掛かっている古い注連縄をはずし、新しい繩に張り替えます。作業が終わると、参加者が並び、最初に宮司が本殿の方を見上げながら「ワァッハッハッハ」と笑うと、それに続いて氏子総代の人たちも高らかに笑う「お笑い神事」が行なわれます。

杭全神社の御田植神事【1959(昭和34)年】

大阪市平野区杭全神社の御田植神事は、実際に田植えをするのではなく、拝殿で田植えの所作が演じられます。これは年頭に豊作を祈願する儀礼で、現在は4月13日に行なわれますが、かつては1月13日でした。太郎坊という男児の人形に白蒸(しらむし)を食べさせたあと、放尿をさせる所作をしている場面です。





住吉祭・大和川を渡る神輿【1960(昭和35)年】

8月1日は、住吉大社の神輿が堺の宿院へ渡御します。大和川の南岸で撮影されたこの写真には、堺へ向かって川を渡る神輿とそれを大和橋の上で待つ人びとや馬の様子が写っています。神輿が川を渡るのは、昇き手の問題などからこの年を最後に中断し、2005(平成17)年に復活されるまで行なわれませんでした。

三村幸一が撮った 大阪の祭り

——— 大阪歴史博物館所蔵写真から ———

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成22年度～26年度)

2013(平成25)年7月10日 発行

編集・発行 関西大学大阪都市遺産研究センター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

電話:06-6368-0095 FAX:06-6368-0092

(表紙)

天神祭・船渡御【1954(昭和29)年】

7月25日に行なわれる天神祭の船渡御は、もともと大川を下って松島の御旅所などへ向かっていました。しかし、地盤沈下のために神輿などを載せた船が橋をくぐることができなくなり、1953(昭和28)年から現在のように上流の桜宮方面へ向かうようになりました。三村はこの年から、御鳳輦奉安船や奉拝船に乗って祭りを撮影しています。表紙の写真は、天神橋をくぐる船の上から撮影されたものです。

■凡例

本リーフレットには、大阪歴史博物館が所蔵する三村幸一撮影の写真資料のうち、大阪の祭りを撮影したものの一部を収載した。撮影年は、【 】を付して記した。

監修:黒田一充(センター研究員)・澤井浩一(大阪歴史博物館学芸員・センター非常勤研究員)

編集・執筆:黒田一充・吉野なつこ(センターリサーチ・アシスタント)
協力:内田みや子、齋藤冬華、藤岡真衣、宮野ともみ、森本安紀